

とがありません。実際にぼくも近所のおばさんやおじさんに叱られたことはありません。しかしぼくの母は近所の公園によく行くので、近所の子の顔はよくわかるし、積極的に声をかけています。

また、公園で何か良くない行動をしている子がいたら注意もしています。最初はぼくの母がただうるさい母なんだと思っていましたが、今は母が公園で色々な子に声をかけたり、世間話をしている理由や意図が少しわかる気がします。

それは、声をかけてくれたり、注意をしてくれる大人が見守っているよ、と地域の子供たちに知らせてあげるためにそうしているのだと思います。楽しい世間話もするけれど、良くないことをしたら怒ってくれるオバサンという印象を日常の中で子供たちに与えているのだと思います。実際にぼくの見てもそうなっているように思います。

ぼくは、非行や犯罪のない地域づくりをしていくために必要なことは、大人も子供も顔を知り、交流を持ち、話しやすい環境を作ることだと思います。地域の人が互いのことを知っていれば、注意もしやすいし、何か困ったことがあれば助けることもできます。ぼく自身も何かトラブルにまき込まれるようなことがあれば、自分の親でなくても助けて欲しいと思うし、ぼくも可能な限り助けたいと思います。

今はなかなか近所や町内会、地域の人と交流できる機会は多くはないかもしれないけれど、毎日のあいさつだったり、町内会や地域のイベントに参加することで大人の顔を覚えたり、覚えてもらうことができると思います。小さなことかもしれないけれど、毎日の関わりの中で大人にも「地域みんなで子供を見守り育てる。」の気持ちを少しでも持ってもらうことができれば、ぼくたちが何かトラブルにあったり、良くないことをした時に、大ごとになる前に未然に防ぐことができるのではないかと考えます。

